

豊富な資料と犀利な分析で  
近代日本の歩みを地球的視野から、  
とくにアジア・太平洋の視野から促え直す  
年一回刊行の研究論文誌！

植民地文化研究会 発行

不二出版 発売

# 植民地文化研究

第1号～第4号(2002年～2005年)



最新号(第4号)表紙

定期購読受付中！



植民地文化研究

資料と分析 2002



特集「満洲国」文化の性格  
近代の日本と台湾(1)

1

第1号 特集「満洲国」文化と台湾

座談会 雑誌「満洲浪曼」をどう評価するか

出席者 西原和海・岡田英樹・西田 勝(司会)  
「満洲詩人」のあゆみ① 猪野 陸／「満洲文話会通信」を読む  
西原和海／「満洲国」に夢を紡ぐ―藤山一雄の二側面  
西田 勝／「満洲」におけるロシア亡命文学の遺産 キム・レイホ／中国における東北淪陥期文学の研究の現在 呂元明  
／訳・岩崎富久男

小説 血の償い 王秋螢／訳・解説 岡田英樹  
資料紹介 満洲文芸家協会の栞一 黒崎史貴・斎藤秀昭編  
雑誌「満洲浪曼」細目 谷本澄子編  
満洲文芸聯盟機関誌「満洲文芸通信」細目(上) 城間正人編  
濱江省興農合作社聯合会機関誌「北滿合作」細目  
「北滿合作」抄一

「北滿合作」の刊行に就て／合作運動の新段階を論ず(上)(佐藤大四郎)／「北滿合作」現地編集会議報告／廃刊の辞／民謡一篇ほか(野川隆)／書籍紹介①島木健作著「満洲紀行」／②「農村青年報告」／③和田伝著「家長」  
視角とアンテナ  
新渡戸稲造をめぐる問題 神谷忠孝／横断のバースペクティヴ 橋本雄一／「満洲」研究のことなど 安藤彦太郎  
特集 近代の日本と台湾①  
日本の台湾征服戦争 大江志乃夫  
台湾の植民地的支配と沖繩 涂 照 彦  
台湾人の「満洲」体験 又吉 盛清  
許 雪 姫  
林 郁 文  
鄭 清 文  
林 水 福  
私の戦争体験 鄭 清 文  
日本文学史の不可欠の一章 日台シンポジウム「近代の日本と台湾」これまでの歩み 葉石清／訳・西田勝  
小説 夜襲 許 介 鱗  
思想史に見る東アジア共同体 葉石清／訳・西田勝  
海峡植民地―永井荷風の「新嘉坡」 許 介 鱗  
土屋 忍



先住民文化と現代  
新嘉坡 今村栄治  
後藤新平と阿片謀略  
植民地文化研究会

第4号 特集「満洲国」文化と台湾④

日台フォーラム(先住民文化と現代)  
シヤマン・ラボガン／リカララー・アウー／呉豪人／小田実  
／知里むつみ／青柳文吉  
台湾出兵Ⅱ牡丹社事件130年国際学術検討会から  
頼 厚／西田 勝／高加 馨  
後藤新平とその阿片謀略 許 介 鱗  
台湾文学と私(下) 張 寛 敏  
小説 国葬 白 先 勇  
台湾「外省人」文学史の視点から 道上 知弘  
視角とアンテナ

真杉静枝が書いた台湾 高良留美子／香港の「反日」と「親日」 和仁廉夫／日韓問題に思うこと 木村 一信  
書評  
日本華僑華人研究会編著「日本華僑・留学生運動史」 安藤彦太郎／小林英夫・福井紳一著「満鉄調査部事件の真相」 井村哲郎／柳本通彦著「明治の冒険科学者たち」 又吉盛清  
「中日文化協会」に関する初歩的な考察 趙 夢 雲  
日本軍政下のインドネシア文学 II H・B・ヤシン編／訳・解説 奥島美夏

特集「満洲国」文化の性格④  
座談会 「満洲文学」での雑誌「作文」の比重  
西原和海・岡田英樹・西田 勝(司会)  
「言」と「不言」の間 銭理群 岸陽子／訳  
小林実ノート 猪野 陸  
「満洲詩人」の歩み④ 古丁／訳・解説 岡田英樹  
満洲文芸聯盟機関誌「芸文」細目(上) 谷本澄子編  
「満洲文話会通信」細目(下) 齋藤秀昭・松下奈津美編  
「農事合作社報」(下の二) 城間正人編  
今村栄治の内心の世界 「新胎」の解題を兼ねて 秋原 勝二  
小説 新胎 西田 勝  
満洲文話会の歴史と現在(中文) 訳・解説 岡田英樹

植民地文化研究

資料と分析 2003



特集「満洲国」文化と台湾(2)  
「満洲詩人」は誰か  
詩人野川隆の新発見作品

2

第2号 特集「満洲国」文化と台湾②

座談会 雑誌「満洲文芸通信」の位置づけ

出席者 西原和海・岡田英樹・西田 勝(司会)  
「満洲国」の女性作家呉瑛の文学 岸 陽子／詩人野川隆の到達点 西田 勝／「満洲文話会通信」を読む(下) 西原和海／「満洲詩人」のあゆみ② 猪野 陸  
小説 人生のなかのある日 金 音／訳・解説 橋本雄一  
「満洲文芸通信」細目(中) 谷本澄子編  
「満洲文話会通信」細目(上) 齋藤秀昭・松下奈津美編  
「農事合作社報」(上) 城間正人編  
野川隆の新発見作品 西田 勝編  
視角とアンテナ

父香川鉄蔵のこと 香川 節／在「満」朝鮮人の文学 大村益夫／王進益にとつての短歌 今井祥子／過去は超えられたか―国家恋愛映画「大陸三部作」をみて 林 郁  
書評  
岡林稔著「南方文学―光と影」 神谷忠孝／南宮鎮著「近代文学の「朝鮮」体験」 李修京／大村益夫「中国朝鮮族文学の歴史と展開」 布袋敏博

特集 近代の日本と台湾②  
日本・台湾そしてアジア・太平洋地域  
植民地新聞としての(台湾日日新報)  
30年代の上海都市文学  
わたしと上海 鈴木 佑司  
李 承 機  
彭 小 妍  
林 京子  
資料紹介 編・解説 黄英哲・許雪姫  
楊基振日記 郭松棻／訳・解説 塚本亮太  
小説 奔る母親 許 介 鱗  
寒川光太郎と樺太 神谷 忠孝

「天の保路」について(評論) 安達義信  
敬前(短詩5篇) 城小確  
譜調/鳥(詩) 落合郁郎  
風/驟雨(同) 小杉茂樹  
詩五篇(睡眠/相対して/春昼/愴ふ/夏) 安達義信  
二題) 安達義信  
或る素描(小説) 懸橋浅夫  
旧友(同) 竹内正一  
身の上話(同) 秋原勝二  
ドウラン(同) 青木實  
踊り子梨里(掌篇) 竹内正一  
「貧しき化粧」の著者に(書評) 安達義信

内容見本

『作文』(第4輯)の主要作品・記事

(注記)  
(1) 現存を確認、披見できた号のみを採りあげた。第4輯(1933年6月)から第55輯(1942年12月)までのうちの23冊である。  
(2) 同人執筆の詩・小説・評論に限って、そのすべての作品を記録した。随想・書評・埋め草・雑報、同人以外の作品などについては、適宜、取捨した。  
(3) 各号の表題配列は、必ずしもその号の掲載順に従ったものではない。  
第4輯(33年6月6日) 48頁

「満洲文学」での雑誌「作文」の比重

西田 勝 「作文」は小説中心の雑誌としても長く続いた同人雑誌で、最初に取り挙げたかったのですが、現地の図書館でも一冊も発見できず、古い同人秋原勝二さんや西原さんの長年の努力にもかかわらず、全55冊中23冊しか見つかっていない。これ以上待つても飛躍的に改善されるとは思えないので、この23冊で判断するしかないと言った西原さんからの問題提起を思い出して、それを土台に話を進めたいと思います。  
西原 すでに皆さん、よく御存じのことかと思いますが、「作文」小史といったものをまとめて来ましたが、これに沿って少しお話ししてみたいと思います。隔月刊のこの雑誌は一九三二年一〇月、大連で創刊されました。最初は「文芸」というタイトルだったのですが、現在秋原さんが「作文」に、戦前の同誌をめぐって回想ふうな記録を連載なさっていますが、当初は同人制をとってなかつたようですね。「満洲事変」以前、安西冬衡の影響下にあった城小確や安達義信などモダン系系の詩人たちが、これとは別に青木実や町原幸二



など小説を書いていた人たち、この二つのグループが合流して「文学」を始めたわけです。第3輯から「作文」と改題されます。これが現在まで続いているタイトルなのですが、途中、一九三五年一二月、第16輯の時になぜか「二巻」と改題されています。これは多分、誌面刷新とか何か、編集上の問題があったんだと思います。しかし、次の輯からはまた「作文」というタイトルに戻ります。創刊の一年目あたり、同人の間で何やらいざこざがあった二人だけですが、第6輯の発行の後で、第7輯だけ青木と安達のみ二人だけで第4頁立てのパンフレットみたいな号を出したことがありますが、その時に脱退した詩人たちは新たに「新大連派」という雑誌をつくりました。しかしこれは3号で廃刊、また仲間たちが「作文」に戻って来て、その後はずっと落ち着いた形で続くことになりました。大まかにはそういうプロセスがあったわけですが、そういう人脈から見ても、「作文」という雑誌は詩と小説、主としてこの二つのジャンルを大切にしていた雑誌だったことがわかると思います。創刊号は六名のメンバーからの出発でした。ここに第27輯(37年

植民地文化研究

資料と分析 2004



特集「満洲国」文化と台湾(3)  
電にはいる 端正の娘 半島晴子  
日本軍政下のインドネシア文学

3

第3号 特集「満洲国」文化と台湾③

座談会 二つの「芸文」

出席者 西原和海・岡田英樹・西田 勝(司会)  
「満洲国」のオロチオン工作とその最期 林 郁／もうひとつの「白蘭の歌」梅娘論のうち 岸 陽子／芸術家としての藤山一雄 西田 勝／「満洲詩人」のあゆみ③ 猪野 陸  
インタビュー 秋原勝二氏に聞く「作文」の作家たち  
小説 山丁花 疑 遅／訳・解説 岡田英樹  
「満洲文芸通信」細目(下) 谷本澄子編  
「満洲文話会通信」細目(中) 齋藤秀昭・松下奈津美編  
「農事合作社報」(中) 城間正人編  
新発見資料3種 西田 勝編

小説 屯にはいる 端正の娘 半島晴子／記録最後の新京特別市諮議会に於ける白旗降参の決議 藤山一雄  
視角とアンテナ  
日中韓での軍国主義観の乖離 頼 厚／黒竜江省方正県の今昔 田島俊雄／「ウイグル」考 神谷忠孝  
書評  
山本有造著「満洲国」経済史研究」 金子文夫／台湾原住民文学選④「海よ山よ」 西垣 勤／岸陽子著「中国知識人の百年」 飯塚 容

特集 近代の日本と台湾③  
日本のために戦って 幕島からの生還 トアロ・ノカン  
(元高砂義勇隊員)  
奇跡の人生 異民族支配に抗して 柳本 通彦  
台湾文学と私(上) 張 寛 敏  
フォルモサにおける日・独・蘭法学者の邂逅 呉 豪 人  
日本帝国主義と「武士道」 許 介 鱗  
国際政治の中の台湾 進藤 榮一  
小説 阿妹伯 李 喬  
「阿妹伯」を読む―李喬の作家的戦略 三木 直大  
日本軍政下のインドネシア文学 I H・B・ヤシン／訳・解説 奥島美夏

春潮集より(詩2篇 飾画/秋の風) 59頁  
第8輯(34年7月20日) 城小確  
背景の家(随想) 城小確  
支那古代童(同) 安達義信  
漂泊(詩) 安達義信  
地の上/海の泡/ランプ(同) 小杉茂樹  
入江のある街/アカシヤの家(同) 城小確  
動機(小説) 青木實  
世界地図を借る男(同) 竹内正一  
麗夜(同) 三宅豊子  
銭(同) 秋原勝二  
中尾彰について(随想) 島田幸二・城小確

# 植民地文化研究 ● バックナンバー一覧

全てA5判・並製

## 第1号

232頁・本体価格2,000円+税/02年6月刊  
ISBN4-8350-3091-5

## 第2号

240頁・本体価格2,100円+税/03年7月刊  
ISBN4-8350-3092-3

## 第3号

240頁・本体価格2,100円+税/04年7月刊  
ISBN4-8350-3093-1

## 第4号

248頁・本体価格2,100円+税/05年7月刊  
ISBN4-8350-3094-X

〈以降、年一回刊行予定。定期購読受付中〉

## 既刊図書のご案内

植民地文化研究会 編

## 《満洲国》文化細目

《満洲国》で出版された書籍433点、及び同国居住者（居住体験も含む）によって書かれ、日本で出版された書籍99点についての個別の書誌に解説を加え刊行。

編集委員 岡田英樹・西田勝・西原和海

A5判・上製・830頁・05年6月刊 ISBN4-8350-4157-7

定価 本体価格6,800円+税



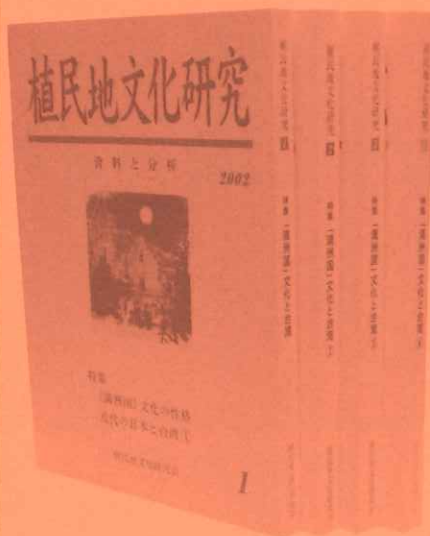
岡村敬二 著

## 「満洲国」資料集積機関概観

戦前期、「満洲国」の図書館・官庁資料室等の活動や蔵書目録の一覧、戦後の接収後の資料収蔵の変遷過程、そして現在中国の図書館に保存されている資料の現況と、その検索ツールズについての集成。

A5判・上製・258頁・04年6月刊 ISBN4-8350-4156-9

定価 本体価格4,800円+税



# 不二出版

〒113 東京都文京区向丘一丁目二二  
TEL 03-3811-2443  
FAX 03-3811-2446  
振替 001601194084

表示価格は、全て税別

注文カード

帖合・貴店名

注文数

定価●本体二、一〇〇円＋税  
ISBN4-8350-3092-3

植民地文化研究 第二号

冊

不二出版

植民地文化研究会編

お客様名

お電話番号

●以後刊行ごとに  
(✓印をお付け下さい) 配本  
案内

注文年月日 年 月 日

バックナンバーのご案内

植民地文化研究 ●創刊号

特集▼「満洲国」文化の性格／「満洲国」文化と台湾①

創刊の辞

座談会 雑誌「満洲浪漫」をどう評価するか(出席者 西原和海 岡田英樹・西田 勝(司会)

「満洲詩人」のあゆみ①(猪野 睦)

「満洲文話会通信」を読む(西原和海)

「満洲国」に夢を紡ぐ 藤山雄の二側面(西田 勝)

「満洲」におけるロシア亡命文学の遺産(キム・レイホ)

中国における東北淪陷期文学の研究の現在(呂元明/訳 岩崎富久男)

「満洲国」時代の中国人作家の創作① 小説・血の償い(王秋螢/訳 解説 岡田英樹)

資料紹介「満洲文芸家協会の栞」

雑誌「満洲浪漫」細目(黒崎史貴・斉藤秀昭編)

満洲芸文聯盟機関誌「満洲芸文通信」細目(上)(谷本澄子編)

浜江省興農合作社聯合会機関誌「北滿合作」細目(城間正人編)

「北滿合作」抄 知られなかった北滿型合作運動の最後の輝きを伝える!

「北滿合作」の刊行に就て/合作運動の新段階を論ず(上)(佐藤大四郎/

「北滿合作」現地編集会議報告/廃刊の辞/民謡一篇ほか(野川隆)

書籍紹介①島木健作著「満洲紀行」②「農村報告書」/和田 伝著「家長」

視角とアンテナ

新渡戸稲造をめぐる問題(神谷忠孝)/横断のパススペクティヴ(橋本雄二)/

「満洲」研究のことなど(安藤彦太郎)

特集 近代の日本と台湾①

日本の台湾征服戦争(大江志乃夫)/日本の台湾植民地経営と現在(涂照彦)

台湾の植民地支配と沖縄(又吉盛清)/台湾人の「満洲」体験(許雪姬)

台湾と私(林 郁)/私の戦争体験(鄭清文)

日本文学史の不可欠の一章(林水福)/日台シンポジウム「近代の日本と台湾」これまでの歩み

小説 夜襲 「光復」直後の独立蜂起の失敗譚(葉石涛/訳 西田 勝)

思想史に見る東アジア共同体(許介鱗)

海峡植民地―永井荷風の「新嘉坡」(土屋 忍)

編集後記/植民地文化研究会々則/二〇〇二年度役員名簿

豊富な資料と犀利な分析で

近代日本の歩みを地球的視野から、

とくにアジア・太平洋の視野から捉え直す!

●年二回刊行予定

植民地文化研究

第二号

特集「満洲国」文化と台湾②  
「満洲農民」に殉じた詩人野川隆の新発見作品

植民地文化研究会編

A5判・並製・二四〇ページ/二〇〇三年七月刊行

定価●本体二、一〇〇円＋税

発売●不二出版「定期購読受付中!」



不二出版

〒113-00023  
東京都文京区向丘1-2-12  
電話03-3812-4433  
ファクシミリ03-3812-4464  
振替00160-294084

●表示価格はすべて税別。

特集 \* 「満洲国」文化の性格 2

座談会 雑誌『満洲芸文通信』の位置づけ

出席者 西原和海・岡田英樹・西田 勝(司会)

「満洲国」の女性作家呉瑛の文学

岸 陽子

詩人野川隆の到達点

西田 勝

「満洲文話会通信」を読む(下)

西原 和海

「満洲詩人」のあゆみ②

猪野 睦

「満洲国」時代の中国人作家の創作②

金 音

小説 人生のなかのある日

訳・解説 橋本雄一

「満洲芸文通信」細目(中)

谷本澄子編

「満洲文話会通信」細目(上)

齋藤秀昭・松下奈津美編

「農事合作社報」(上)

城間正人編

野川隆の新発見作品

西田 勝編

詩 屯の聖母 老頭児の詩

どうして窓を開けないの

収賄役人

役場衙門

小説 団山子屯にて

エッセイ

浜江省満農屯子

編輯者の思ひ出——その頃と今と

書評 久保榮著『火山灰地』

合作グラフ 北満の農村と農民の生活(続き)

視角とアンテナ

父香川鉄蔵のこと

香川 節

在「満」朝鮮人の文学

大村益夫

王進益にとつての短歌

今井祥子

過去は超えられたか——国策恋愛映画「大陸三部作」をみて

林 郁

書評

岡林稔著『南方文学——光と影』

神谷 忠孝

南富鎮著『近代文学の〈朝鮮〉体験』

李修京

大村益夫『中国朝鮮族文学の歴史と展開』

布袋敏博

特集 近代の日本と台湾②

日本・台湾そしてアジア・太平洋地域

鈴木 佑司

植民地新聞としての『台湾日日新報』

李 承 機

30年代の上海都市文学

彭 小 妍

わたしと上海

林 京子

資料紹介

楊基振日記

編・解説

黄英哲・許雪姬

日本占領下の北京に生きた台湾人日本鉄道キャリアの記録

小説 奔る母親

郭 松 菜

幼児期の記憶に二二八事件を投影

訳・解説 塚本亮太

日本の「近代化」は中国の資金援助によるものだ

許 介 麟

寒川光太郎と樺太

神谷 忠孝

編集後記

第5回目日台シンポジウム「近代の日本と台湾」の記録